

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2016年7月19日 12：30～13：45

◆ 会長挨拶



辻村 彰秀 会長

ジメジメした蒸し暑い日々が続いています
 が、皆様お元気ですか？
 本日は2016年規定審議会の決定事項についてお話をさせていただきます。この審議会では47件の制定案、14件の決議案が採択されました。この決定報告書は91ページになりますが、このうち、当クラブに特に関係している事項で、当クラブの細則の変更が必要と思われるものについてご説明いたします。
 1つ目は、“書面による理事会議事録について規定する件”です。これは、理事会の議事録を書面にて作成し、60日以内に全会員が入手できるようにしなさいというものです。
 2つ目は、“例会取り消しの規定を改正する件”です。これは、その週に国民の祝日等が含まれた場合、例会を取りやめることができるということです。
 3つ目は、“出席免除の規定を改正する件”です。これは、今までの要件に、ロータリー歴が20年以上必要になったことです。以上の3点についてはクラブ細則の改正が必要と私は思っております。

これ以外に、私も皆さんも気になったであろう個所が2件ありますので、私の解釈を述べさせていただきます。
 1つ目は、“クラブ会員の入会金に関する箇所を削除する件”です。当初“クラブ会員の入会金を廃止する件”と訳されていたものです。これは、入会金を廃止しなさいではなく、あくまで国際ロータリー細則から入会金の記載を削除したものと解釈しております。
 2つ目は、“クラブ例会と出席に柔軟性を認める件”です。この変更点の中に“ただし、クラブは、少なくとも月に2回、例会を行わなければならない”という文面がありますが、これは非常に特殊な例と解釈しております。実際には、例会は毎週一回、細則に定められた日および時間に、定期の会合を開かなければならないとなっており、又、3回を超えて続けて例会を開かないようなことがあってはならないとなっております。
 今年一年、他クラブの状況等も見ながら、理事会等で、慎重審議していきたいと思っておりますので、宜しく皆様のご意見、ご協力いただくようお願いいたします。
 本日は、小田原ふるさと大使、水戸黄門の格さん等々、テレビドラマ、舞台でご活躍の合田雅史さんの卓話ですので、15分延長の例会となります。皆様、お楽しみください。

◆ 幹事報告



櫻井 康二 幹事

1)本日は先日ご案内した通り卓話を15分延長して、13時45分の終了予定になります。
 2)先週も廻しましたが、清会員のアイデアで、諸星駿吾への銭別を渡したいと思います。募金箱を回しますので、まだ入れていない方、宜しく願います。
 3)地区大会記念親睦ゴルフコンペ、9月26日レイクウッドゴルフクラブにて行われます。出場希望の方は申込用紙等は事務局にあります。
 4)「前期会費納入のお願い」の案内状の訂正です。年会費（後期分）とありますが、（前期分）に訂正して下さい。

◆ 出席報告

齋藤 永 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
7月19日	39(36)	26	0	72.22%
7月12日	39(37)	30	2	86.49%
7月5日	39(38)	37	0	97.37%

【欠席者】10名
 大木 清、石崎 孝、小川 和夫、木村 啓滋、大川 裕、鈴木 竜哉、長田 英一、大高 英之、内山 昇、大野 英明
 【今回MU】増加なし
 【前回MU】2名増加
 久保田 知子（7/13 小田原城北RAC）
 小林 和彦（7/13 小田原城北RAC）
 【前回回MU】増加なし

◆ 委員会報告

親睦委員会・志澤 委員長

8/2に納涼家族例会を開催します。6/28にご連絡を入れてありますので、お返事がまだの方はよろしく願います。場所はえれんなごっそ、17時スタートです。

◆ 卓話

「人生を変えた言葉」



小田原ふるさと大使・俳優 合田 雅史 様

私は生まれが秦野市で、子供の頃から小田原城と早川港が大好きでした。小田原高校に入学して小田原城を見ながら3年間通ったのは非常に楽しい思い出です。一昨年『小田原ふるさと大使』を拝命し、おかげ様で小田原との関わりを直接持つことができている。更に今年リニューアルした小田原城域内に流れる映像で、北条氏成役を演じさせていただきました。衣裳や照明にも凝って、分かりやすく素晴らしい映像になっていると思います。私はお城が好きで全国回っていますが、おそらく城内展示としては日本一見やすいのではないのでしょうか。天守の摩利支天像も当時のまま再現された素晴らしい像ですので、是非足をお運びください。
 本日は「人生を変えた言葉」というテーマで、人との出会いや言葉の大切さについて、芸能界の話も交えながらお話しさせていただきます。最初に私が役者になったきっかけについて。早稲田大学に通っていた頃、学生ベンチャーブームで自分もいつかは起業したいと思っていました。でもまず経済の仕組みを学び、様々な経営者の方の声を聞いて勉強したいと思い、証券会社に就職しました。景気の良い時代で新人営業マンを応援してくれる社長さんたちに恵まれて、トップ表彰されたこともあり。徐々に仕事に遣り甲斐を感じてきた頃、バブルが弾けます。怒涛の日々が続き何が起きているのか、どうしたら

いいのか分からない状況で、このまま証券マンを続けるべきなのか毎日悩んでいました。その時、スターライトプロモーションという今も所属している事務所にスカウトされたのです。役者をやってみないかと言われた時には、もう24～5歳。経験も無い未知の世界です。憧れはありましたが今更無理だと断ろうとしたら、親友からメールが来て『運命の波には乗るべきだ』と。それまで受験や就職活動を計画的に乗り越えてきた自分には衝撃の言葉でした。その言葉に押されて役者挑戦を始めます。戦隊もののオーディションを受けた時はまだ在職中で、会社帰りにスーツから私服に着替えて参加していました。驚くことに数千人から勝ち抜いてオーブル(青)役に決まりました。それで急いで退職願を出したのですが、営業成績もそこそこ良かったので、なかなか退職を認めてもらえません。気づくと撮影開始3週間前。支店長に「他にやりたいことがあるのか？」と聞かれ、焦っていた私は「ヒーローになります！」と言ってしまいました。沈黙が流れ、慌てて事の経緯を説明しました。すると支店長は「今まで多くの部下を卒業させてきたが、ヒーローを送り出すのは初めてで引き留める言葉が見つからない。合田、頑張れよ」と言ってくれたのです。胸が熱くなりました。正直「そんな夢みたいなこと言ってるんじゃない！」と叱られるかと思っていたのです。それが励ましの言葉をいただいて、支店長や会社の思いを裏切らないように、自分の選択を間違ったものにはできない、大きなベースを捨てて人生のチャレンジをするということに初めて実感が持てました。今でもその思いは心の中にあり、挫けそうになった時に背中を押してくれます。役者を続けて20年が過ぎました。
 戦隊ヒーローでデビューし、その後はドラマや舞台に出演し、あまり苦労せずに俳優として活動していました。劇団や養成所の経験も無く、若さ故の傲慢さから「演技の練習さえしていれば仕事は来る。営業も付き合いも必要ない」と思っていました。でも年齢を重ねると段々仕事のオファーが減ってきます。不安になって或るプロデューサーの方に相談し、返された言葉は心に突き刺さりました。「君は天才か？それとも秀才か？俳優は1%の天才と2%の秀才は何をしてもいい。残りの97%は大差ない。その中で誰と仕事がしたい？人間だから皆好き嫌があるし、誰でも好きな人と仕事がしたい。特に芸能界は色々な人が一緒に一つの作品を作るから、素直に人の話を聞く耳、話し合うゆとりを持たなくてはだめだ」と言われました。「媚びる必要はないが、こいつと付き合っていきたいと思わせる努力をしなくては。今の合田くんは壁を作っていて全く可愛くない。そんな人は真っ先に切られるよ」と。衝撃でした。芝居はできるかと思っていたし、自信もありました。でもオーディションで最後の3人には残れても、知っているプロデューサーに落とされる。それはそういう理由だったのです。素の自分を出すことや親くなるのが怖かったのですが、その言葉をもらってから自分をさらけ出して接する努力をし、信頼関係はそこから生まれると学びました。その言葉をくれたプロデューサーは今でも心の師です。
 そこから人の繋がりを大切に演技の勉強も精進していたところ「水戸黄門」の格さん役という光栄なオファーをいただきました。時代劇ですのでチャンバラは必須ですが、練習時間は数日しかありません。形にするために殺陣集団の先生たちが指導してくれます。私は出演が決まって1週間後にはクランクインでした。練習に使えるのは4日間。ゲストと違って求められるレベルが高いので、猛特訓を受けました。毎朝道場で裸足に浴衣で素振り100回から始まります。投げつけられるサッカーボールを木刀で切り落とす練習は、来たものを躲しながら剣で落とすため。殺陣の基本です。見た目怖い先生たちに怯えながら練習しました。でも先生方は私を苛めたい訳でなく、効率的

に仕込んでくれていたのです。マメや水ぶくれが出来ては破け、筋肉痛と疲労感で起き上がれず這って稽古場に行きました。でもその4日間だけでは格さんらしい立ち回りはできません。とにかく強く見えないのです。悩んでいたら殺陣の先生が「技術が上達するには経験が必要だが、今は自分が日本一強いと思うことが大事だ。その気持ちがあれば多少のことはカバーできる。後はわしらに任せとき」と。こんな心強い言葉はありませんでした。お蔭で委縮せずに、勢いと気持ちで撮影に臨むことができました。
 格さん役は私が5人目です。今までの方たちが作り上げたキャラクター、強くてしっかり者の渾美格の進が出来あがっているのです。でも自分らしい部分を出したい。伊吹吾郎さんのイメージが強い格さんとのギャップで悩んでいました。すると御老公役の里見浩太郎さんが「この役は長くやる役だから無理して役作りをしなさいいけないよ。10年後もやっているかもしれないから、君らしい格さん像を自分で作ればいい。無理すると破たんするから」と言ってくださいました。私にとって神様のような言葉で気持ちが楽になりました。どの業界でも道を究めた人の言葉は力と勇気を与えてくれます。
 「水戸黄門」でよく質問されるのは入浴シーンです。残念ながら由美かおるさんの入浴シーンは厳重警戒で関係者以外は入れません。お風呂のシーンはのんびりしたイメージですが実は大変です。セットにお風呂を作りぬるめのお湯を入れますが、段々汗をかいてメイクや髪が崩れてきます。それを直すのに時間がかかり、お湯が冷めると湯気が出ないのでドライアイスを入れます。そんな大変な撮影を200回以上、あれだけきれいに撮影していた由美さんは本当にすごいと思います。それから印籠。撮影の印籠は輪島塗の名工が作ったもので、葵の御紋がきれいに浮き上がり漆塗りの部分は周囲が映ってしまうくらい輝いています。値段をつけたら500万以上の貴重なものなので、桐箱に入れジェラルミンの金庫で現場にきます。小道具の方が手袋をして渡してくれ、素手で触れるのは格さん役の私だけです。立ち回りの中で出すこともあります。絶対落とせません。すごい緊張感でした。印籠の持ち方は代々違います。私は、印籠をなるべく隠さない、御紋より上に指が見えない、ということを意識して持っていました。爪が目立つので撮影当日は必ず磨いてきれいにしていました。
 「水戸黄門」では人生を変える、救ってくれた言葉が沢山ありました。ただそれ自体が勝手に運命を変えてくれる訳ではありません。心を閉ざし聞く耳を持たなければ、素通りしてしまいます。いつもオープンマインドでいようと心掛けています。言葉以外に人生を変えるアイテムは、ジンスクや験担ぎでしょうか。成功された方や一流スポーツ選手は自分なりのルールを持ち、自己暗示や集中力を高める力にしています。芸能界は気にする人が多く、どの劇場にも神棚があって皆お詣りしてから楽屋に入ります。私のジンスクは草鞋を右から履くこと。偶然左から履いた時に怪我をして、絶対右から履くようになりました。女優の吉田羊さんは以前、験担ぎで赤い下着しか着けないと言っていました。それから大人気になり、験担ぎは単なる迷信ではないと感じました。続ける意気込みや強い信念が何かに繋がっていくのではないのでしょうか。
 10回目となる小田原映画祭が9/10から開催され、実行委員長を務めさせていただきます。オープニングには小田原城銅門での野外上映会があります。月明かりの中、虫の声をバックにした素晴らしい上映会ですので、是非お越しください。

